令和 4 年度 県立神栖高等学校自己評価表

目指す学校像	<p>「一人一人が自立し、輝きに満ちた学校」、「社会に貢献できる有為な人材の育成」</p> <ol style="list-style-type: none"> 「自立貢献」を目指す理念とし、教育的愛情を基盤とした教育活動を実践する。 確かな学力と表現する力の育成を図り、生徒ひとりひとりに明確な目標を持たせ、個性と自立心を伸長させる。 自制心、向上心、共感性等を育てる教育活動を通して、非認知能力の育成に努め、地域や社会に貢献できる心豊かな人間を育成する。 特別活動等の活性化と魅力ある学校づくりを推進し、地域から信頼され、選ばれる学校を目指す。 生徒ひとりひとりの人権を尊重し、生徒・職員が相互に人格を認め合ういじめのない環境をつくる。 		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<p>重点目標の達成に向けた取り組みにより、学校全体が落ち着いてきている。また、新聞等メディアへの掲載や積極的なホームページでの情報発信等により、諸活動が地域で評価され、生徒一人一人の自信へと繋がり、中学生への良いPRともなった。</p> <p>ICT 活用の充実は必至であり、GIGA スクール構想のもと、「興味・関心・意欲を高める授業」のため、効果的な学習指導のさらなる研究・実践が望まれる。</p> <p>生徒指導では、特別指導件数は昨年同様 10 件で、組織的・継続的な指導が功を奏し、欠席や遅刻、服装・頭髪などの改善がみられた。「安全・安心」な学校のため、交通安全やいじめ防止教育については、継続して組織的に取り組んでいく。</p> <p>進路指導では、粘り強く丁寧な指導により就職内定率 100% となった。進学においても制限の多い中、外部模試等の事前事後指導の充実により好成績を収める生徒が増加し、上級学校への進学者が 19 名となった。今後は、動画配信等を組み込み、公務員試験への組織的な支援を強化し、生徒の自学自習スタイルの確立を目指す。</p> <p>学校行事や部活動等では、コロナ禍での制限のもと、体験的活動に創意工夫が求められている。各種委員会や生徒会は、校内外において積極的に活動を続けており、生徒の自己有用感の向上に大きく貢献している。</p> <p>神栖市との包括連携協定のもと、より一層、地域と連携し生徒の対外的な活動を促進する。チャレンジプロジェクトの計画的な履行により、ポートフォリオを活用した探究活動の充実を図る。</p>	(1) 基礎学力の向上と授業の質の向上	<ol style="list-style-type: none"> ①家庭学習（オンライン学習等を含む）の定着及び進学課外の充実 ②学習・進路に対する明確な目標設定と上位級への挑戦を含む資格取得の奨励 ③インクルーシブな学習方法習得及び進学指導体制の構築 	B
	(2) 基本的生活習慣の定着と安全指導の充実	<ol style="list-style-type: none"> ④時間遵守の意識付けと規律正しい生活習慣の獲得 ⑤SNS 等インターネットの安全な活用法の習得といじめの防止並びに早期発見・早期解消 ⑥交通事故の未然防止（自転車の安全指導・交通マナー指導） 	B
	(3) 自ら課題を発見する力の育成	<ol style="list-style-type: none"> ⑦チャレンジプロジェクト計画案の確実な実施 ⑧探究活動の充実 ⑨ICT 機器を活用した授業実践と積極的な研修 	A
	(4) 広報活動の更なる充実	<ol style="list-style-type: none"> ⑩学校 HP の更なる充実⇒学校活動が見えやすい内容と学校からの連絡充実 ⑪携帯連絡網（マ・メール）の効果的な活用（学校からのお知らせ、緊急対応、各種行事、事務室関係、PTA） ⑫校内掲示の充実及び電子機器の積極的活用 	B
	(5) 外部機関との連携	<ol style="list-style-type: none"> ⑬神栖市との包括連携協定の更なる充実（合同スクールバス運行、キャリア教育支援金給付、神栖市各課や市内県立 3 校との共同開催事業） ⑭ポートフォリオの活用導入（民間企業とのコラボ事業） 	A
	(6) 働き方改革の推進	<ol style="list-style-type: none"> ⑮定時退勤日、完全退勤時間の設定 ⑯資料、情報のネットワーク上での共有化及びペーパーレス化の推進 	B

別紙様式2 (高)

三つの方針		具体的目標
	<p>「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)</p>	<p>●「一人一人が自立し、輝きに満ちた学校」、「社会に貢献できる有為な人材の育成」</p> <p>① 個人の目標を定め、協働的に粘り強く挑戦する。 ② 地域や社会における「解のない問い」に対峙できる力をつける。 ③ 様々な「自立」に向け、主体的、意欲的に行動する。 ④ 心身ともに健康で、情操豊かで他人を思いやる。 ⑤ 地元を愛し、地域を知り、個人や社会に「貢献」できる力をつける。</p>
<p>「三つの方針」 (スクール・ポリシー)</p>	<p>「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)</p>	<p>●「学ぶ喜びを感じながら、主体的・協働的・探究的・社会的に学びを深める」</p> <p>(1) 目標や進路希望に応じた教育課程 1 年次→中学校での学習を基礎に、全生徒がフラットな学級編成で普通科での課程を修得 2 年次・3 年次→学習成績並びに進路希望に応じ、各自に適切な教育課程の授業を選択</p> <p>(2) 県指定事業「チャレンジ・プロジェクト」の実施 (重点校) 1 探究活動→地域(神栖地域)や社会の課題に対し、各教科・科目で主体的・対話的で深い学びの実現を目指した「総合的な探究の時間」を軸に探究活動を進める。 2 グローバル研修→広く世界に目を向けて、文化理解・交流・語学・地域理解を進める。 3 自立活動→次世代につなぐ(赤ちゃんふれあい体験)、選挙講座、消費者教育等。 4 キャリア教育→地元産業について学ぶ(合同企業研究会、インターンシップ等)、進学希望校の探究、保護者の学び(PTA 研修)、資格取得の奨励。</p> <p>(3) 特に力をいれる3つの進路実現の推進 1 高卒公務員(神栖市役所、消防署、警察官、自衛隊等)試験合格 2 小学校教員養成課程四年制大学への進学 3 看護医療系専門学校及び四年制大学への進学</p> <p>(4) ICTの活用 高度情報化社会に対応できるよう、情報活用能力を育成し、ICT環境を整備しつつ、新技術を活用した様々な教育活動を実践し、実体験を通じた情報モラルの向上を図る。</p> <p>(5) 特別な配慮を必要とする生徒への対応 生徒、保護者等からの教育ニーズ等を把握した上で、個々の生徒の状態等に応じた指導内容や指導方法の工夫を検討し、できる限りきめ細かく適切な指導と必要な支援を行う。</p> <p>(6) 多様な評価の実施 生徒のよい点や変容等を評価するため、各教科・科目で評価の場面や方法を工夫し、外部の試験・評価等も参考として生徒の実力を診断し、それぞれの個に応じた進路実現に活かす。</p> <p>(7) 教職員の継続的で充実した研修 教職員が、各教科・各科目の指導方法、ICT教育、地域連携の学びなど、新たな価値のある学びを継続して研修する。</p>
	<p>「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)</p>	<p>●資質・能力並びに3年間計画する教育内容を踏まえ、入学時には次のような生徒を求める。</p> <p>① 中学校で修得すべき基礎学力の上に、各自の心身の発達及び進路に応じて、一層の学力を身に付けようとする生徒。 ② 主体的に学習する態度や習慣を身につけ、進路実現を目指し、日々努力する生徒。 ③ 学校内外の様々な活動(部活動、芸術活動、ボランティア活動)等に積極的に取り組み、実践し、表現しようとする生徒。 ④ 人への思いやりを大切にするという精神を尊重しようとする生徒。 ⑤ 本校で身に付けた資質・能力を発揮して、世界や地域の課題を自分の課題として、解決に向けて探究するとともに、仲間と一緒に活動しようとする生徒。</p>

別紙様式2 (高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題	
教科	国語	生徒の興味・関心・意欲を高める授業を展開する。	アクティブ・ラーニングの視点に立った授業研究を積極的に行い、生徒が主体的に学習に取り組むための環境を整える。②③	B	今年度は、言語活動として主に資料の読み取りを取り入れたが、他の言語活動の内容や言語活動の行いやすい環境作りについても模索していきたい。また、教科特有の ICT やその使用方法を模索していくことも今後の課題としたい。
		基礎学力の向上を図る。	週末課題を課し、漢字・語彙・ことわざ・慣用句等、学習の基礎基本の定着を図るとともに家庭学習の定着を図る。①	A	
	豊かな人間性の育成に資する授業を展開する。	学期毎に全学年共通の「漢字コンクール」を実施し、漢字検定受験への意識を高めさせるとともに、検定受験者数の増加を目指す。②③	A		
		言語活動を取り入れ、教材を通して豊かな心を育む指導の工夫を行う。②	A		
		授業の関連図書や生徒の興味関心に合わせた図書の紹介を行い、読書に親しむ習慣を確立させる。①②	B		
		地歴公民	基礎学力の定着を図り、発展的な内容にも取り組む。	小テストを繰り返し実施し、基礎知識の定着につなげる。②	
生徒の興味関心を高めるような授業の展開を図る。	定期的なノートや課題を提出させ、生徒の学習状況を確認する。②	A			
	生徒が調べ学習を行い、その内容を記述したり、発表する機会を作る。⑤	B			
	視聴覚教材を積極的に活用し、生徒の授業への興味関心をもたせ、学習内容をより深く理解できるように工夫する。①③	A			
数学	基礎学力の向上を図る。	教員間で、教材研究の工夫や情報共有を密にし、分かりやすい授業を実践する。①③	B		
		少人数指導・習熟度別指導を行い、1人1人の状況に合わせた適切な課題を設定する。②	A		
	学習の習慣を定着させる。	ICT やオンライン学習などを積極的に活用し、生徒の理解を深める。①②	B		
		日々の課題や週末課題を作成し、家庭における学習の機会を設ける。①	B		
理科	基礎学力の向上を図る。	ノートや問題集を定期的に提出させ、学習状況を確認する。①②	A		
		授業において月に2回は ICT 活用を行い、生徒の科学的事象への興味・関心を高め、知識の定着を図る。①⑨	A		
	興味・関心を育むため、効果的に実験を実施する。	課題を出し、学習習慣の定着を図るとともに、ノートなどを定期考査ごとに提出させ、学習状況を確認する。①②	A		
		各科目とも年間で授業単位数以上の実験を行い、生徒の学び合いの場をつくるとともに科学的に探究する力を養う。②③	B		
保健体育	規律ある集団行動の徹底を図る。	理科を身近なものに関連づけて学習ができる教材の研究に努め、教員間で情報を共有し、授業に活用する。②③	B		
		時間厳守を徹底し、開始時間前に着席・活動場所への移動・着替えを徹底する。①②④	B		
	学習意欲の向上を図る。	学校指定体育着の着用・制服の着用など運動・学習にふさわしい服装を徹底させる。①②	B		
		自主的自発的、協力して積極的に授業に取り組む姿勢を育成する。①②⑫	B		
音楽	音楽への興味・関心を高める。	自他の安全を確保し思いやりを持たせ、学力・体力の向上を目指す。①②⑫	A		
		体力向上・自己実現に向け、意欲的な生活ができるよう育成する。②⑪⑫	B		
	音楽の諸能力の向上を図る。	生徒が興味・関心を持って活動に取り組むことができるよう、ICT の利用や教材の精選を行う。①②	B		
		生徒のレベルや特性に合った課題や題材を設定し、よりきめ細かい指導を行う。①②③④	A		
書道	書道に対する興味・関心を高める。	音楽の基礎的知識と表現および鑑賞の活動を結びつけ、より深く音楽と向き合い、味わう姿勢を養う。②③	A		
		書道の歴史を学びながら、さまざまな書体と書風を学び、表現する楽しみを味わわせる。①	A		
書道	書道に必要な能力の育成を図る。	定期的な硬筆書写練習を行い、硬筆書写技術の向上を図る。①③	B		
		・硬筆書写技術の向上のための指導強化			

別紙様式2 (高)

		古典の臨書を通して基本的な書写能力を養い、その能力を活かした創作を行う。 ①	A	A	表現の多様性や違いに気づけるよう、作品の相互評価などにも積極的に取り組む。
外国語	国際理解の心を育てる	視覚教材やICTを活用し、異文化への興味・関心を高める ①	A	A	自己表現につながる活動(Writing・Speaking)を3年間を通して段階的・計画的に実施する。基本文法・構文の定着につながる課題を組み入れる。
	基礎学力の向上を図る	定期的な週末課題を与え、家庭学習の習慣を身につけさせる。 ①②	A		
		少人数指導や習熟度別指導を通じて、生徒一人一人の理解度に応じた指導を行う。 ③	A		
		定期的な単語テストや確認テストを実施し、学習内容の確実な定着につなげる。 ①②	A		
	「わかる」授業展開のための工夫をする	Writing活動や単元毎の音読テストを通して、アウトプットの時間を設ける。 ③⑫	B		
ペアワークやグループワークを通して生徒が互いに学びあう環境を整える。 ③⑫	A				
家庭	基礎知識・技術の向上を図る。	ノート・ワークシート・製作物を提出させ、生徒の意欲・実力を確認する。 ②	A	B	ICTの活用について、課題提出だけでなく授業中も活用していきたい。全体的に計画に則り進めていく。
	家庭への興味・関心を持たせる。	基礎的な知識・技術を身に付けさせ、実生活で実践できる力を育てる。 ②	A		
		各分野から成功体験や達成感を得るために学習内容の工夫改善を図る。 ②③	B		
	グループワーク等から自分らしさを知り、他者を理解し認め合う心を育む。 ②⑫	B			
情報	基礎学力の向上を図る。	ノート・プリントを定期的に提出させ、的確に学習状況を把握する。 ①③	A	B	・ICT活用の充実を図り、正しいネットワーク活用を円滑に行えるような活動を主体的に取り組む。
	授業への意欲を持続させる。	ネットワークを利用する上での、ルール・マナーを理解させる。 ①	A		
		生徒個々のレベルに合わせた課題を出し、成果を的確に評価し意欲を持続させる。 ①③	B		
商業	基礎学力の向上を図る。	基礎的な知識を身に付けさせ、実技科目における機器の操作の習熟を図る。 ①②	A	B	・学習意欲の向上と資格取得に向けた指導法の工夫を図る。
		生徒の理解を確認しながら、その進捗状況に合わせ継続的な指導の工夫改善を行う。 ①②	A		
	学習意欲の向上を図る。	各種の検定試験にチャレンジさせ資格取得に努めさせる。 ①	B		
教務	校内研修の充実を図る。	年間2回、校内授業週間を設定し、教員相互の研修の機会を計画・実施する。 ③⑨	A	A	効率化を図りながら継続的に業務にあたる。ICT校内研修を校内で実施する(教科や学年の枠で実践発表研究会として)。授業から通常貸出につながる図書館利用の増加を図る。
	学習意欲の向上を図る。	年間2回、生徒状況調査を行い、現状を把握し改善すべきところ改善する。 ①②⑫	A		
	学校全体の教育活動を支援するために図書の実践を図る。	定期的な図書購入と除籍を行い、教育活動に役立つ資料を充実させる。 ②⑧	B		
	読書の推進と図書館利用の増加を図る。	図書館報の発行や新着図書案内の掲示を行い、読書のPRに努める。 ⑫	A		
		生徒が利用しやすい図書館環境をつくる。 ⑫	B		
業務の効率化を図る。	IT活用推進委員会と連携し、ICTの的確な運用・管理と校務の効率化を図る。 ⑨⑫⑯	A			
特別活動	生徒主体の学校(生徒会)運営を目指す。	各種委員会では創意工夫した活動を計画的に進める。 ⑩⑫⑬	A	A	各種行事は感染症に留意しての実施で、満足、充実した内容で進めることが出来なかった。部活動の運営方針の改訂に伴い、本校における適正な運営や効果的な活動方法を模索していきたい。
		毎月生徒評議会ですべての強化項目を十分達成させる。 ⑩⑫	A		
		部活動(運動部・文化部)の部員確保と活性化に努める。 ⑩⑬	B		
		生徒会を中心としたボランティア活動や広報活動を推進する。 ⑧⑩⑫⑬	A		
	HR活動の充実を図る。	強化月間の取組み等を通して、HRの内容を充実させる。 ④⑤⑩⑫	B		
	学校内外の活動をキャリアパスポートにより把握し、個を伸ばす指導を行う。 ⑫⑯	A			
学校行事を通して帰属意識を育成する。	コロナ禍において、今年度予定されている行事について、やり方を考えながら出来るだけ充実させていきたい ⑨⑩⑪⑫⑯	A			
生徒指導	家庭との連携を密にし、基本的な生活習慣を定着させる。	教員による毎日の登校指導と、月1回のPTA・同窓会・後援会・青少年相談員との連携した声かけあいさつ運動を実践し、生徒会や委員会主体の活動を積極的に取り入れる。 ⑤⑨⑭⑮⑯	B	B	学年間での指導の格差が生じないように連携や全体での周知を行う。交通安全に対する意識が希薄なため、対策を講じる。
		遅刻による段階指導を徹底し、遅刻者を減らす。 ④⑤⑨⑭⑮⑯	C		
		アルバイトについて、学業や生活へ悪影響が及ばぬよう、適切に指導する。 ④⑤⑨⑭⑮⑯	C		

別紙様式2 (高)

	危機管理能力を育成し、自他の命を大切にすることを育み、安全指導の充実を図る。	服装・頭髪・ピアスの指導を徹底するとともに挨拶や言葉遣い等のマナーを徹底する。 ④⑤⑨⑭⑮⑯	C	心に問いかける説諭・指導の充実を図る。	
		登下校時に、学校周辺や通学路の安全指導を実施する。 ④⑤⑭⑮⑯	B		
		校外外での問題行動防止のために毎休み時間の巡回指導を徹底する。 ④⑤	B		
		防犯教室・安全教室等を適切に実施し、盗難ゼロ・事故ゼロを目指す。 ④⑤⑨⑭⑮⑯	B		
	いじめの実態把握、迅速かつ適切な措置を講じる。	面談・声かけ・アンケートなど生徒個々の様子に注意し、いじめの未然防止に努める。 ①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪	B		
		迅速慎重に対応し、早期発見・早期解消に努める。 ①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪	A		
進路指導	生徒の主体的な進路選択の支援を積極的に行う。	4月、9月、1月に進路希望調査を実施し、希望動向を把握する。 ①②	B	生徒の進路の把握や進路行事の運営など業務はたくさんあるが、教員間で情報共有を図り指導にあたりたい。	
		進路意識高揚のため、進路講話や各種ガイダンスを開催する。また1・2学年において職業観・勤労観の育成を図るため、体験授業等を実施する。 ②③⑦⑧⑭	A		
		定期的に進路だよりや、進路情報誌等を配付し、生徒・保護者へ進路情報を提供する。 ①②③	B		
	進学・就職指導の充実を図る。	進学に対応できる学力を育成するため、課外授業だけでなく外部模擬試験等を工夫し、放課後や長期休業中に実施する。 ①②	A		A 研修なども含めて、教員のスキルアップを目指し、生徒の進路実現・神栖高校の魅力アップにつなげたい。
		生徒を体験学習、オープンキャンパス、また会社見学等に参加させ進路に対する意識づけを図る。 ③⑦⑧⑭	A		
		面接試験対策を実施し、進学・就職希望者に対して言葉遣いやマナー等を身につけさせる。 ⑦⑧	A		
広報渉外	PTA活動を充実させ、家庭との連携を密にし、家庭の教育力の向上を図る。	マ・メールを活用し、PTA活動や学校からの連絡を周知する。 ⑮	A	A スクールバスについては、運行委員会での十分な検討が必要である。	
		保護者の負担を軽減し、効率的な活動を行う。家庭との連携を図る。 ⑨			
		神高トピックスの年間3回発行・校内展示・掲示など広報活動の充実を図る。 ⑭⑯			
		スクールバス運行委員会と協力し、円滑な運行に努める。 ⑬			
保健厚生	快適な生活・学習環境の実現を図る。	清掃の徹底とゴミの分別により校内美化を図る。さらに、修繕等で校舎内の生活環境を整備する。 ⑫	B	B 修繕等は速やかに行っていたと思う。避難経路の確認のみで実際の訓練を実施できなかった。	
		避難経路を周知徹底し、災害(火災と地震)を想定した避難訓練を実施することで緊急時の安全を図る。 ⑩⑪	C		
	生徒・教職員の心身の健康を増進させる。	健康診断による生徒の健康把握と、適切な保健指導を通して保健室の円滑な運営を図る。 ④⑫	A		
		健康管理医との連絡を密にし、衛生委員会を中心に職場環境の改善と、職員の健康増進を図る。 ⑫⑮	A		
教育相談	学校が安心できる場所となるような支援体制の充実を図る。	生徒が抱える悩みを早期に把握しSC、SSW、外部機関等と連携して問題の早期解決にあたる。 ④⑦⑫	A	A SCの来校日等を事前に生徒等が分かるようにし、相談しやすい体制を整える。リラックスルームの効果的な運用については来年度も検討していく。心理テストで支援が必要な生徒の把握をしていく。	
		リラックスルームの効果的な運用をする。 ④⑫	B		
	学級における親和的な雰囲気づくりと自己有用感の伸長を図る。	SCと連携し、各学年で構成的グループエンカウンターを実施し良好な人間関係が作れるよう支援する。 ④⑫	A		
		年2回のHyper Q-Uテストの実施と、効果的な分析を学年単位に行い、各学級における生徒の立場を正確に把握し、改善に役立てる。 ④⑫	A		
第1学年	基本的な生活習慣の確立を図る。	月1回学年集会を行い、規範意識の向上に努める。 ④⑤	A	A 各種検定に積極性を持たせる。道徳の運営改善。指導カー	
		登校指導やチャイム前着席の呼びかけを徹底し、時間を守る意識を高める。 ④⑫	B		

別紙様式2 (高)

	基礎学力の向上を図る。	家庭との連携を密にし、問題行動の未然防止および改善に努める。 ④⑪⑫	A		ドを有効活用した生活態度を向上。進路に対して考える機会を増やす。家庭との連絡を密にしていく。一人一人の様子を丁寧に見取り学年全体で一貫した指導をしていく。
		授業の始業チャイムの前に着席し、学習の準備をして授業に臨めるよう努める。 ④⑨	B		
		スタディサブリの課題配信を定期的に行い、家庭学習を習慣化するよう努める。 ①⑨	A		
	進路指導を充実させる。	各種検定試験の受験を推奨し、取得に向けての課外授業などを実施する。 ②	B		
		総合的な探求の時間を計画的に活用し、自分自身の興味や適性に気づかせ将来の方向性を考えるきっかけをつくる。 ②⑫	A		
心の教育を充実させる。	チャレンジプロジェクトでの体験活動を通して、勤労観や職業観を育成する。また、コミュニケーションスキルの向上に努める。 ⑥⑦⑧⑨⑭	A			
		「道徳」を活用し、社会の中における自己の在り方、生き方について深く考える機会を作る。 ⑤⑧	B		
第2学年	基本的な生活習慣の確立を図る。	毎 SHR に服装指導を行うことで規範意識の高揚を図り、集団の一員であることを自覚させる。 ④	A	B	チャレンジプロジェクトなどを通して、生徒の進路に対する意識を高めることができた。生徒指導件数が多かったため、生活指導と進路指導のバランスを考えていきたい。
		遅刻指導・チャイム前着席を励行し、時間を守る意識を高める。 ④	A		
		家庭との連携・協力を密にし、問題行動の未然防止及び改善に努める。 ④⑤⑥⑩⑪	B		
	基礎学力の向上を図る	チャイムと同時に授業を開始し、授業時間を確保する。 ②④	B		
		一般常識用問題集及び週末課題を用意し、定期的な学習を行う。 ①②③	A		
		進路を踏まえた課外授業・模擬試験・各種検定を奨励する。 ①②③	A		
	進路指導を充実させる。	タブレットとスタディサブリを活用し、進路指導の充実を図る。 ⑨	B		
		チャレンジプロジェクトにおける体験活動を通して、自らの将来を考えさせる。 ⑦⑧	A		
		成績不振者のための考査前補講に学年職員全員で臨む。 ①②	B		
	第3学年	基本的な生活習慣の確立を図る	定期的に学年集会を開き、頭髪服装検査を行うことで規範意識の高揚を図り、社会の一員であることを自覚させる。 ④⑤		
家庭との連携を密にし、生徒が自立した生活を送れるように指導する。 ⑩⑪			A		
登校指導や休み時間の巡回指導を通し、問題行動の未然防止と生徒の状態把握に努める。 ④⑤			A		
進路の実現に努める。		週末課題として一般常識学習を継続的に行うとともに、定期的にテストを実施することで、基本的な教養と学習習慣を身につけさせる。 ①②	A		
		総合的な探求の時間を利用しグループワーク学習に取り組み、コミュニケーション能力を向上させる。 ②③	B		
		国公立大学や中堅私立大学以上の学習に対応した実力を身につけさせるため、進学課外を充実させる。 ①②	B		
		全員卒業に向け、考査前に実施する成績不振者のための補習に学年全員で協力して臨む。 ①②	A		
社会生活を見据えた指導の充実を図る。		授業やLHRの時間を使って人生の意義を追求し、社会の一員として自己が果たすべき役割や自主的な社会生活を送ることの重要性を意識させる。 ③⑫	B		
		進路講話等を積極的に活用し、社会全体に必要な知識や考え方を身につけさせる。 ②	A		

※ 評価規準：A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できてない